

## 文学に見る震災資料展

### 零石隆子の川柳でたどる東日本大震災

2020（令和2）年2月28日（金）—4月5日（日）

2011（平成23）年3月11日に起きた東日本大震災から、今年で9年目を迎えます。

被災地に住む表現者たちは、震災とどのように向き合ってきたのでしょうか。

この度の展示では、零石隆子（川柳作家）が震災を詠んだ川柳をとおして、被災地に暮らす表現者があの巨大災害をどのように表現し、発信し続けているかを紹介します。

いまだ行方不明の人があり、ふるさとに戻ることのできない人が多く存在します。復興なかばの状況において東北地方を襲った台風被害。自然災害を前に、進めていた歩みを止められてしまう人がいます。

芸術が、そうした人々に寄り添い、何らかの励ましやなぐさめになることを祈らずにはいません。

パネル展と同時に、2018（平成30）年以降に出版された小説・短歌・俳句・川柳・詩などの作品の一部を紹介します。お手に取ってご覧になり、こころの琴線に触れる作品を見つけていただけますと幸いです。

2020年2月28日

仙台文学館



零石 隆子 しづくいし りゅうこ

1946年、宮城県東松島市生まれ。1980年、福島県郡山市で川柳を始める。1982年、仙台市「海の会」大島洋に師事。1985年、川柳宮城野社に入会。2002年、川柳宮城野社第五代主幹に就任。1988年、宮城県芸術選奨、2004年、NHK ふるさと賞、2008年、宮城県教育文化功労賞を受賞。編著書に、『樹下のまつり』『濱夢助の川柳と独語』『大震災を詠む川柳——101人それぞれの3・11』『樹下のまつりⅡ』、一般社団法人 全日本川柳協会常務理事、公益社団法人 宮城県芸術協会理事長、河北新報柳壇選者、河北TBCカルチャー講師、NHK文化センター講師など。